

☆親和保険通信☆

損害保険・生命保険の(株)親和保険

北の山々からは初冠雪の便りが届く時期となりました。朝・晩はめっきり冷え込み、酷暑だった夏が、なつかしくも感じられます。季節の変わり目は、なにかと体調を崩しがちです。みなさまにおかれましても、お体を大切に、ご自愛くださいませ。さて、今回は体・身体とともに大切に、表裏一体をなしている心・メンタルの健康についてお話ししたいと思います。

最近によくメンタルヘルスという言葉を目にします。文字通り、心の健康のことです。メンタルヘルスケアは、精神的な過労やストレスを減らし、うつ病などの精神疾患の予防と改善を意味するそうです。ということは、やはり働かされている方や何らかの組織に所属して活動されている方は大変、身近な問題ではないでしょうか。

特に、雇用形態が多様化したことや、数値的な成果や実績を重視する査定方針の会社が増えたことで、働く人々の職場でのストレスは増大していると思われます。経営者サイドにおいても、社員の仕事の悩み・職場環境に対する不安やストレスに関心をよせております。というのも、企業にとって、人的資源は経営資源の重要な構成要素の1つであり、労働生産性の向上のためにも重要であるからです。

■厚生労働省 平成24年 労働者健康状況調査 から

1.メンタルヘルスケアへの取組状況（事業所調査）

メンタルヘルスケアに取り組んでいる事業所の割合は47.2%で平成23年調査(43.6%)より上昇し、事業所の規模別にみると、300人以上の規模では9割を超えております。取組内容(複数回答)は「労働者への教育研修・情報提供」が46.7%と最も多く、次いで「管理監督者への教育研修・情報提供」44.7%、「社内のメンタルヘルスケア窓口の設置」41.0%となっております。また、メンタルヘルスケアに取り組んでいる事業所の割合は、事業所規模が小さくなるほど低下しております。(第1表)

	事業所規模								
	平成24年	5,000人以上	4,999~1,000人	999~500人	499~300人	299~100人	99~50人	49~30人	29~10人
事業所合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100
メンタルヘルスケアに取り組んでいる	47.2(100)	99.1(100)	98.0(100)	96.4(100)	92.8(100)	83.1(100)	71.4(100)	56.0(100)	38.9(100)
メンタルヘルス対策について、安全衛生委員会等での調査審議	(28.9)	(66.1)	(63.6)	(58.2)	(50.7)	(48.0)	(45.4)	(27.4)	(21.5)
労働者への教育研修・情報提供	(46.7)	(85.4)	(82.7)	(72.9)	(65.2)	(55.9)	(48.4)	(48.4)	(43.5)
社内のメンタルヘルスケア窓口の設置	(41.0)	(89.8)	(85.1)	(73.9)	(63.4)	(49.3)	(43.2)	(46.0)	(36.6)
労働者のストレス状況などについて調査票を用いて調査(ストレスチェック)	(25.8)	(57.8)	(59.5)	(46.5)	(39.6)	831.1)	(28.2)	(23.5)	(24.3)
職場復帰における支援(職場復帰支援プログラムの策定を含む)	(24.6)	(81.2)	(76.1)	(62.9)	(48.8)	(34.7)	(28.9)	(20.3)	(22.0)
他の外部機関を活用したメンタルヘルスケアの実施	(13.8)	(37.1)	(35.7)	(29.9)	(23.5)	(17.0)	(15.9)	(13.8)	(12.2)
メンタルヘルスケアに取り組んでいない	52.8	0.9	2	3.6	7.2	16.9	28.6	44	61.1

(厚生労働省 平成24年 労働健康状況調査 第9表より抜粋)

2.メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業または退職した労働者の状況（事業所調査）

過去1年間(平成23年11月1日から平成24年10月31日までの期間)にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業または退職した労働者がいる事業所の割合は8.1%(23年調査9.0%)となっております。

3.精神的ストレス等に関する事項（労働者調査）

(1)仕事や職業生活に関する不安、悩み、ストレスについて相談できる人の有無等

現在の自分の仕事や職業生活に関する不安、悩み、ストレスについて相談できる人がいるとする労働者の割合は90.0%(19年調査89.7%)となっており、女性(93.4%)の方が男性(87.2%)より高くなっております。相談相手(複数回答)は「家族・友人」(86.7%)が最も多く、次いで「上司・同僚」(73.5%)となっております。(第2表)

区分	労働者計	相談できる人がいる	相談相手(複数回答)										相談できる人はいない	不明
			上司・同僚	家族・友人	産業医	産業医以外の医師	保健師又は看護師	衛生管理者または衛生推進者等	カウンセラー等	その他				
平成24年	100.0	90.9	(100.0)	(73.5)	(86.7)	(8.3)	(5.2)	(4.8)	(2.5)	(4.3)	(4.7)	10	-	
男性	100.0	87.2	(100.0)	(74.8)	(82.8)	(11.0)	(6.1)	(5.2)	(3.0)	(4.7)	(4.5)	12.8	-	
女性	100.0	93.4	(100.0)	(72.0)	(91.3)	(5.2)	(4.2)	(4.4)	(2.0)	(3.9)	(4.9)	6.6	-	

(厚生労働省 平成24年 労働者健康状況調査 第27表より)

仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスの有無、その内容について、現在の仕事や職業生活に関することで強い不安、悩み、ストレスとなっていると感じる事項がある労働者の割合は60.9% (19年調査58.0%) となっております。また、強い不安、悩み、ストレスを感じる事項の内容(3つ以内の複数回答)をみると、「職場の人間関係の問題」(41.3%)が最も多く、次いで「仕事の質の問題」(33.1%)、「仕事の量の問題」(30.3%)となっております。(第3表)

区分	労働者計	強い不安、悩み、ストレスがある	強い不安、悩み、ストレスの内容(3つ以内の複数回答)													強い不安、悩み、ストレスがない	不明
			仕事への適性の問題	職場の人間関係の問題	昇進、昇給の問題	配置転換の問題	雇用の安定性の問題	会社の将来性の問題	定年後の仕事、老後の問題	事故や災害の経験	その他	不明					
平成24年	100.0	60.9	(91.0)	(30.3)	(13.0)	(32.0)	(34.1)	(31.8)	(9.8)	(11.5)	(52.2)	(82.1)	(12.1)	(1.8)	2	39	1
男性	100.0	60.1	(100.0)	(34.9)	(33.0)	(19.6)	(35.2)	(23.2)	(8.7)	(12.8)	(29.1)	(22.4)	(2.3)	(6.0)	-	39.9	-
女性	100.0	61.9	(100.0)	(30.9)	(27.0)	(21.0)	(48.6)	(13.7)	(8.3)	(18.7)	(15.0)	(19.6)	(1.9)	(11.0)	-	38.1	-

(厚生労働省 平成24年 労働者健康)

■会社内での取組について

最近ではケガだけでなく、うつ病などの精神障害や過労死等まで労災認定されるケースが増えています。

職場内のメンタルヘルス対策の参考として、厚生労働省のサイト内の「働く人のメンタルヘルスポータルサイト・こころの耳」があります。ご興味のある方は是非ご覧ください。

保険商品につきましては、ケガだけでなく労災認定されたメンタル疾患に対しても、保険金をお支払いする商品に対するお問い合わせが多くなってきております。

何よりも、事業主・責任ある方は従業員の異変を見逃さないように心掛けることが大切です。そして、うつ病をはじめとしたメンタル疾患に対する正しい認識をもつことも非常に大切です。うつ病が疑われる人に対して「気合が足りない」、「わがまま」といった誤解や偏見がいまだにあるようです。

メンタル疾患は誰でもかかりうる病気であるという正しい認識を持つことが重要です。

編集後記

今回は、主に職場におけるメンタルヘルスの情報を提供しました。職場環境や労使の関係は、私が社会に出た二十数年前とは、隔世の感があります。その間、職場環境は、転勤・転職等節目ごとで変わりましたが、現在に至るまで、恵まれた環境で働く事が出来ている事に感謝しております。(K・H)

安全と繁栄を創造する

株式会社 親和保険

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮7-13-1
 TEL048-683-3421 FAX048-684-4331
 E-mail: shinwa@green.ocn.ne.jp
 http://www.shinwa-hoken.com/